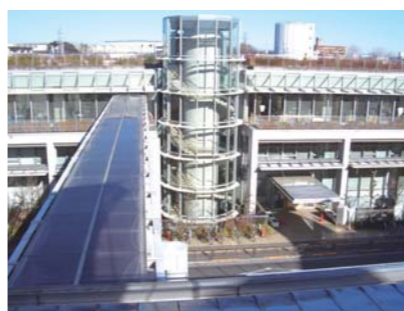




《Q》図書館の抱える問題点は
《A》三分室の老朽化や利用者減が課題である

濱中 俊男 議員（新政会市民クラブ）



ゆとろぎから見た図書館

図書館について
質問 過去10年間の入館者数の推移は。
教育長 平成15年度 約37万人。20年度 約27万人。25年度 約21万人である。
質問 過去10年間の蔵書数の推移は。
教育長 平成15年度 約29万冊。20年度 約34万冊。25年度 約38万冊である。
質問 開館時間は。
教育長 午前10時から午後8時までである。午後8時までの開館は市民に喜ばれている。
質問 公立図書館に指定管理者制度を導入することに関しての市の考えは。
教育長 運営経費の削減効果

果が低いことや、個人情報等を民間事業者が管理すること等の問題がある。今後、調査、研究していく。
質問 利用者の増加策は。
教育長 ウェブサイトの利便性や情報サービスの向上を図り読書手帳を導入し新たな利用者も増えてきた。今後も、魅力を高め、創意工夫をしながら機能の充実に努める。
質問 図書館の抱える問題点は。
教育長 日常的な運営管理の中で大きな問題点はない。多くの方に親しみやすく利用してもらうことが重要である。三分室(川崎・富士見・加美)の老朽化や利用者減が課題である。



《Q》西口区画整理事業は最優先に駅前を
《A》優先的な整備促進を図っていく

印南 修太 議員（新政会市民クラブ）



羽村駅から見た西口のロータリー

羽村のまちづくりについて
質問 市がすすめる都市基盤整備事業に、人口減少による影響はあるか。
市長 羽村駅西口土地区画整理事業は、人口減少動態の変化による事業への影響を受けるものではない。
質問 JR青梅線羽村駅を中心とした既成市街地の再編整備事業として、より良好でこれからの時代に適合した安全・安心なまちづくりを目指す事業である。
質問 羽村駅西口土地区画整理事業は、駅前を最優先に整備できないか。
市長 駅前周辺は多くの市民交流の場として、にぎわ

い拠点の創出や、交通の結節点として多面的な役割を担っており、都市の顔として、「まち」のイメージを高めるシンボリック空間である。優先的な整備促進を図っていく。
質問 東京オリンピック・パラリンピックまでに、羽村駅西口駅前に飲料メーカーと共同で、水と共に発展してきた街「はむら」らしい水をテーマにした複合施設を造れないか。
市長 駅前周辺の整備に関しては、これまでも市民の皆さまの利便性の向上を図るために、商業施設の設置や複合施設の建設要望等を受けている。引き続き地元や関係機関等のご協力を得ながら調査・研究を進めていく。

《Q》「介護保険」の制度移行は十分に時間をかけるべきでは
《A》周知期間を十分に確保し、円滑な実施に取り組む

鈴木 拓也 議員（日本共産党）



介護保険はどうなるのか

質問 要支援者へのサービスを、①「専門的サービス」と、②ボランティアなどによる「多様なサービス」に分ける案が示された。必要なサービスは受けられるのか。
市長 利用者が多様なサービスのなかから選択できる仕組みを構築していく。従来のサービスが必要な方には、同様なサービスを提供していく。

質問 「特養ホーム」の増設・増床が必要ではないか。
市長 羽村園が32床増床したことなどから、現段階では必要ないと考えている。
質問 「介護保険料」は、極力引き上げるべきではないか。
市長 審議会で検討中のため、お答えする段階にはない。

オスプレイの配備を許さないため、たたかおう

質問 中東の対「イスラム国」作戦で、オスプレイの乗員がまた死亡した。市長は



建て替えて増床した特別養護老人ホーム

強力に「オスプレイの飛来配備中止」を、国と米軍に対して求めるべきでは。
市長 これまで8回にわた

り要望書を提出してきた。引き続き、諸問題の解決のため取り組んでいく。
質問 共産党の市民アンケートには「飛行機の騒音がひどい」との声が多数寄せられた。より強く、騒音の軽減を働きかけるべきでは。
市長 騒音軽減のため、夜間・早朝の制限時間を拡大するなど、米軍への申し入れを働きかけている。

《Q》将来に備えた借地の必要性等の基準は
《A》平成27年度中に公共施設等総合管理計画を策定

水野 義裕 議員（羽村21）



市有施設などの管理について

質問 休日の駐輪場の整理は。
市長 自転車等が乱雑な駐輪場も見受けられるので、今後、自転車整理員の配置を検討したい。
質問 産業福祉センターの駐車場の活用は。
市長 同センターの休館日にあたる月曜日は原則として閉鎖しているが、ゆとろぎや図書館で大きな催し物がある場合は開放している。

質問 市の施設のために借りている土地の面積・借地料は。
市長 平成25年度末現在、186件、約23万7千平方メートル。そのうち116



生涯学習センターゆとろぎの立体駐車場

件、約8万8千平方メートルは有償で、賃借料は、年間約1億5千万円。残り70件、約14万9千平方メートルは、固定資産税を免除すること、無償で借りている。
質問 将来に備えて、借地の必要性などの判断基準は。
市長 これらの土地は、昭和40年～50年代にかけ、社会基盤整備の進展に伴って借り受け、現在まで継続している公共用地が多い。これらの用地に建設した施設の経年劣化に伴う今後のあり方と併せ、取扱いを検討する時期と認識している。
そこで、財政負担が生じても機能を維持すべき施設、整理していく施設などを検証し、最適に対応する。用地は将来に渡って借用が可能なのか、買い取る必要があるのかなどを把握できるように、平成27年度中を目標し、「公共施設等総合管理計画」を策定している。



山崎 陽一 議員 (世論)

《Q》年間事業費 59 億円。事業の終りの始まりだ

《A》平成 27 年度に事業費、期間を見直す

区画整理撤回要求第31弾
事業計画変更が認可されると平成29年度の市費負担59億円。事業の終りの始まりだ。

質問 東京都は事業認可理由をどう説明しているか。
市長 私が答える立場がない。内容は東京都議会のウェブサイトで閲覧できる。

質問 事業費370億円、平成33年度終了を精査する時期はいつか。住民のチェックは担保されるか。
市長 平成27年度に見直す。法に沿って進め、市議会や権利者にも丁寧に説明する。

質問 密集住宅市街地整備補助金を申請するそうだが事業費増加額、補助金額は。
市長 老朽建築物戸数、曳き家、再築の補償割合などが不明で金額は未定だが、市負担の軽減につながるものと捉えている。

質問 区画整理を50年、100年かけてもやる、と言っている真意を聞く。
市長 まちづくりは将来に

向けて継承される事業。財政健全化に最大の配慮をし、社会情勢の変化にも対応。期間内で全力を尽くす。
質問 公社委託を終了させ、区画整理は見直すべき。
市長 公社の3年契約は今年度末終了。3月議会で新規契約議案を提案する。



羽村駅西口周辺の様子

行政サービス全国3位、いまいずこ
質問 平成14年は行政サービス全国3位。平成24年は52位。何が課題か。
市長 行革、情報公開、環境配慮などが評価された。今後は少子高齢化、人口減少で自治体間競争が激化。市民サービス向上に取り組む。

常任委員会 視察報告

私たち市議会議員は、特色ある施策を実施して優れた成果を上げている自治体や団体に学ぶため、視察や関係団体との懇談会など、調査・研究を行っています。これらの活動を通じ、羽村市が抱える様々な課題などについて理解を深め、今後の行政運営に反映させるよう努めています。
平成26年に実施した常任委員会の主な視察の概要をお知らせします。

総務委員会

【研究テーマ】 行政運営および事務管理、火山灰対策

【視察先】 佐賀県武雄市（教育改革・図書館への指定管理者制度導入）／鹿児島県鹿児島市（桜島の火山灰降灰対策）

【委員】 濱中俊男（委員長）
富松崇（副委員長）
石居尚郎
水野義裕
船木良教
門間淑子



総務委員（左から 門間、富松、濱中、石居水野、船木各委員）。鹿児島市役所前にて。

経済委員会

【研究テーマ】 キラリ光る自治体事業

【視察先】 徳島県上勝町（ゼロ・ウェイストの取組み、葉っぱビジネス）／神山町（IT企業誘致等）／佐那河内村（コミュニティハッピーソーラー事業）

【委員】 西川美佐保（委員長）
川崎明夫（副委員長）
富永訓正
橋本弘山
山崎陽一
馳平耕三



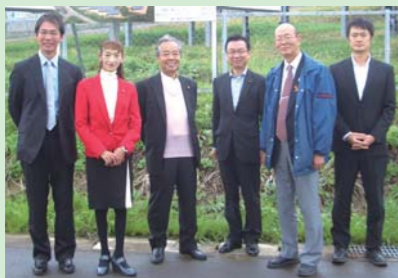
経済委員（左から 山崎、西川、富永、橋本馳平、川崎各委員）。上勝町小水力発電所にて。

厚生委員会

【研究テーマ】 高齢福祉、健康づくり、再生可能エネルギー

【視察先】 秋田県横手市（健康の駅よこて東部トレーニングセンター）・秋田市メガソーラー発電所

【委員】 大塚あかね（委員長）
小宮國暉（副委員長）
印南修太
中嶋勝
鈴木拓也
瀧島愛夫



厚生委員（左から 鈴木、大塚、瀧島、中嶋、小宮印南各委員）。秋田市メガソーラー発電所にて。

ご存じですか？

議員の 寄附行為の禁止について

議員が寄附をすること、議員に寄附を求めることなどは禁止されています

議員は、選挙区内の人（法人、その他の団体を含む）に対して寄附をしたり、あいさつ状を出したりすることは禁止されています。また、有権者が議員に対して寄附を求めることも禁止されています。

したがって議員は、選挙区内の人に対して祝儀や香典、年賀状等のあいさつ状などを出すことはできませんので、皆さまのご理解をお願いいたします。

「寄附」とは

現金に限るものではありません。花輪や記念の置物、トロフィー、飲食物など、多少でも金銭的価値のあるものを無償で提供することも寄附にあたります。

寄附の例

- ・各種会合へのご祝儀（ただし、参加者全員が会費を負担している場合に同額を負担する場を除きます）
- ・祭りへの寄附や差し入れ
- ・地域の運動会やスポーツ大会への差し入れ
- ・親睦旅行への差し入れ
- ・開店祝いの花輪やお祝い
- ・葬式の花輪や供花
- ・お中元やお歳暮
- ・入学・卒業・就職・出産などのお祝い

ただし、次のようなものは除かれます。

- ・自らが出席する結婚披露宴のご祝儀
- ・自らが出席する葬式・通夜の香典

総務委員会

佐賀県武雄市の教育の取組み

(視察日：10月15日～16日)

鹿児島市桜島の火山灰降灰対策

(視察日：10月17日)

視察初日と2日目は、小中学校の教育と図書館の管理運営に関して先駆的な取組みをしている佐賀県武雄市を訪問。3日目は、視察当日も噴火を繰り返していた桜島の火山灰対策について伺いました。

武雄市のICT教育

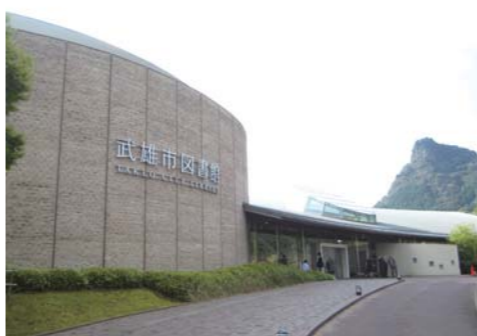
タブレットの導入

佐賀県武雄市では、特に教育について、武雄市長の強い思いで改革が進められています。

まずICT（タブレット）の導入推進です。武雄市には、小学校11校に児童2834名、中学校5校に生徒



▲武雄市で教育改革について伺う



▲武雄市立図書館の外観

1344名が学んでいます。平成21年度から電子黒板の導入を始め、小学校と中学校への普及率は合わせて85%。平成23年度には、タブレットの一種であるiPadを2つの小学校に導入、平成24年には、ICTスキルアップセミナーもスタートし、毎回30～40名が参加しています。

タブレットを使った小テストを実施し、学力の傾向を把握し対策を練り、学力テストでも成果が確認できました。

その後、市内の全市立小中学校からタブレットを教育に活用したいという要望を受け、平成26年4月に全小学校に導入、来年度は全中学校に導入予定とのことです。

スマイル学習の導入

二つ目はスマイル学習（反転授業）です。学校（先生）の動画によって、教室がより革新する授業というものが、これまで学校でやっていた、学習の「狙いの把握」から「まとめ」までの

※スマイル (SMILE) ... School Movies Innovate the Live Education classroom (SLE)

4段階のうち、「狙い」と「ひとり学習」を家庭で行い、新たに「発展学習」を学校で取り入れました。これは、①児童生徒がより意欲的に学習に取り組む ②授業者が児童生徒の実態をより正確に把握して授業に臨める ③授業では協働的な問題解決能力を育成することを目的としています。

スマイル学習は各単元のポイントで活用しています。教育委員会と相談の上、各学校では企業とタイアップして、単元ごとにコンテンツ作りを分担し、成果は全市で共有しています。保護者からは、タブレットの破損・紛失の不安、健康

への不安、タブレット使用の習慣化への不安などが挙げられています。破損・紛失については市が対応し、タブレットを常用しないように気を付ける、持ち帰ってもネットにはつながらない設定にするなどの工夫をしています。

タブレット3153台とサーバ込みで年間1・3億円の費用がかかっています。小学校のパソコンは、XP問題もあって全廃しました。意欲的な取組みに、大きなヒントを得ることができました。

武雄市図書館

改善を進め 指定管理者制度を導入

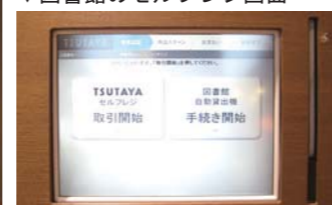
視察の2日目は、武雄市



▲武雄市図書館の内部。暖かみのある寛げる雰囲気
▼図書館のセルフレジ画面



▼桜島の降灰対策について担当課に伺う



▼図書館のセルフレジ画面

館内では本の貸出はもちろん、雑誌等の販売やDVDやCDのレンタルも行っています。また、スターバックスコーヒーが併設され、館内にあるすべての本を、コーヒーを飲みながら読むことができます。

他にもセルフカウンターがあり、利用者が自分で本の貸出や購入ができたり、Tカードの利用や、タブレット端末で書籍等を検索するサービスも充実しています。

このように官民の融合により市民価値を上げること、来館者数も大幅に増え、運営費をこれまでより100万円程削減することができたとのこと。新しい公共施設の一つの在り方ではないかと思いました。

私たちの羽村市でも、すべてを真似するのではなく、どうすれば満足度が向上するのか、市民の立場で考えていく必要があると思います。

桜島の降灰対策

降灰除去の記録から 地元の方々の苦労を実感

桜島の火山活動は、平成23年は996回、平成24年は885回の爆発回数を記録しているとのこと。噴火の様子はテレビや新聞等で知らされているものの、現地で生活している方々の、一言では語れない苦労を感じました。

鹿児島市では、昭和53年度より、降灰除去作業を実施しています。職員の巡視で状況を把握し、降灰除去区域を決定しているそうです。道路、公園、学校などの公共施設の降灰除去作業はロードスイーパー等の重機を使用し、各家庭では袋詰めして市で収集し処理しています。道路の路側線（白線）が見えづらくなった場合や、歩行者や車両の通行に支障をきたす場合に除去作業を実施しているそうです。作業は降灰量の多い

地域から重点的に行い、1回につき3日以内に作業を完了する計画としていたとのことでした。

問題は重機の入れない宅地内の灰の処理や農業への影響です。各家庭の灰は、指定場所に収集業者が巡回することですが、高齢化、核家族化、また障害者に対する配慮が欠かれないでしょう。通院や生活必需品の買い物、幼児の外出や通学等から考えると素早い灰の処理等の対応は欠かせないでしょう。収集頻度についても、地域の実情に合わせて細やかな配慮が求められると考えます。

自然災害はいつどこで起こるか判りません。日本列島は火山列島です。自然災害は地域によって様々ですが、「備えあれば憂いなし」という教訓を、今回の視察で再確認することができました。

図書館を訪問。開館前に到着すると、すでに一般の方が多数待っている状況でした。館内は市の図書館とは思えない、明るく居心地のいい空間だと感じました。

日開館の実施、特別整理期間の短縮、休館日を月2回にするなど改善してきましたが、「もっと多くの方に利用していただきたい」と、指定管理者制度を導入することで、年中無休を実現しました。指定管理者は葛屋書店を運営するカルチュア・コンビニエンス・クラブ。